



新しいパルテノン多摩の
ココが変わる!

シリーズ1 エントランスロビー 編

今号では、2階(ペデストリアンデッキ)から入ってすぐのロビーがどう変わるのかをご紹介します!



BEFORE



AFTER

パルテノン多摩のリニューアルオープンが待ち遠しい!

リニューアル後は「様々な文化が集まってくる楽しい場所」や、「まちの中の広場のように自由に過ごせる場」になり、川で例えるならば「人の流れがすこしゆるやかになる、潤のような場」になると考えています。

昭和62年に開館してから30年間のパルテノン多摩とはちょっと違う、今求められている空間を創り出すために、改修工事を進めています。

改修工事は、感染症対策をしながら予定通りに進めば、令和3年の12月に終わります。それまでの間は、多摩中央公園周辺では通り抜けできないエリアがあるなど、みなさまにはご迷惑をおかけします。

工事に携わる現場の職人の方、市役所の職員、そしてパルテノン多摩共同事業体の私たちも一致団結して、より良い施設づくりを進めていますので、ご協力をよろしくお願いいたします。



2019年3月/鈴木聡男氏(定例P)撮影

テーマは「まちに開く!」

改修後は、壁を取り払うことで広場をつくりだし、ご来場のお客様がくつろいだり、散歩やお買物の合間に気軽にご利用いただけるようになります。ホール専用だったトイレも、いつでもどなたでもお使いいただくことができるようになり、エレベーターも稼働時間を拡大することでより便利に! 特別展示室は、展示だけでなく講演会や演劇など多用途にご利用いただけるオープンスタジオという空間に生まれ変わります。イベント利用がない時には、ダンスや歌の練習など自由にお使いいただけます。

みなさま、リニューアルオープンをご期待ください。次号は、パルテノン多摩の顔!ホールについてご紹介します。

「CHECK!」

キース・ヘリングってどんな人? パルテノン多摩との関係は?



Keith Haring artwork © Keith Haring Foundation

キース・ヘリング(1958-1990)は1980年代にニューヨークで活躍したアーティストです。エイズによって31歳という若さで亡くなるまで、彼は世界中にたくさんの作品を残しました。1987年10月31

日のオープンをはかえたパルテノン多摩では、キース・ヘリングに、多摩地域の文化振興を担うパルテノン多摩のシンボルになるような作品の制作を依頼しました。打合せの中でキース・ヘリングから「多摩のこどもたちと一緒に作品を作りたい」という提案を受け、地域のこどもたちを集めて壁画等の共同制作を行うことにしました。

壁画制作に参加された 岡村安佑子さんに、 当時のお話しをお聞きしました!

当時5歳の私は、キースさんがどのようなアーティストであるかはまったく想像もできておらず、外国から来たお兄さんが青空の下、自由自在に絵を描いていたこと、自分自身も部屋の中ではなく、外で自由に絵を描けたことがとても新鮮で楽しかった記憶があります。手に収まるほどの大きさの発泡スチロールの球を渡され、私はそれに女の子を描き、弟はひたすら青に塗りました。30年以上が経ち、球は劣化してしまいましたが、いまでも大切な宝物です。



学芸報告

【市民学芸員養成講座】

市民学芸員養成講座が始まりました。1回目は、オンラインでの自己紹介が中心でしたが、2回目は各自が多摩市域の魅力ある場所をプレゼンし、その件数は70件以上にのぼりました。11月には旧多摩聖蹟記念館や東寺方区域を歩き、これらの活動から得た地域に関する情報や、市民学芸員のさまざまな経験、得意分野をもとに、11~12月にかけてそれらを活かしていくための博物館像の検討会を行う予定です。

【古文書講座初級】

今年の古文書講座は、永山公民館での会場受講とオンライン受講の併用で行いました。オンラインでの開催についてはさまざまな不安もありましたが、実際にやってみると、「画面が近くて見やすい」「理解しやすい」などの声もいただき、新たな可能性を感じました。講師の福留先生には、享保の改革の時代の話をお聞きし、古文書の文字をじっくり解説していただき、大変親しみやすい講座となりました。今回の経験を活かしながら、より多くの方々に親しみやすい古文書講座を作っていきたいと思っています。

【多摩テレビ連携「多摩ニュータウンの移り変わり」YouTube配信】

多摩テレビと連携して配信中の「多摩ニュータウンの移り変わり」では、「起工式」「団地内商店街」「初期入居」「交通」について学芸員が解説しています。今後は「建物」「諏訪二丁目住宅」「街路樹」というテーマについても配信していく予定です。

【アウトリーチ】

豊ヶ丘小学校3年生向けに出前授業に行ってきました。学芸員が豊ヶ丘周辺の歴史や特色などを、クイズをまじえて解説しました。今回の授業をもとに興味を持った場所を調べていく予定です。

【定点撮影プロジェクト】

改修工事が進むなか、定点撮影プロジェクトの撮影も続いています。変化していく多摩ニュータウンの姿をとらえ、記録していくことも博物館の使命のひとつです。



2020年11月/渡部一富氏(定例P)撮影



丸善多摩センター店+パルテノン多摩連携展示 「多摩のカヤ場の博物誌 mini」

11/16(月)~2021年1/14(木)

●時間: 10:00~21:00

●場所: 丸善多摩センター店 レジ裏フェアスペース

丸善多摩センター店と連携し、書店内に展示をしています。第1弾「航空斜写真から見た多摩ニュータウン」、第2弾「多摩の祭礼と寺社」に続き、第3弾となる今回は、旧多摩聖蹟記念館にて12月20日(日)まで開催している地域連携展示「多摩のカヤ場の博物誌」の内容をダイジェストで展示し、関連書籍もご紹介します。かつて多摩丘陵の各地にあったカヤ場と呼ばれるスキ草原について、地域の人々との関係や、カヤ場の生物多様性を解説します。

事業報告

オンライン文化祭 多摩市立聖ヶ丘小学校金管バンド・演奏パレード

10月に多摩市立聖ヶ丘小学校金管バンドによる演奏パレードのサポートを行いました。演奏の技術指導だけでなく、全体の演出も担当し、当日は聖ヶ丘小学校を出発して聖ヶ丘コミュニティセンターまで、6年生総勢34名でパレードしました。道中観客も多く、児童は緊張しつつも楽しんで演奏していました。練習風景やパレードの様子をまとめた映像は「多摩市市制施行50周年記念 みんなでつくる多摩市 ONLINE文化祭」において上映されました。現在はパルテノン多摩のYouTubeで見ることができますのでぜひご覧ください!

